

1. 活動のテーマ ことばと表現

<テーマの設定理由>

意味も分からず若者言葉を使う子どもがいて、便乗する子どももいれば、意味を聞いたりする子どももいた。傷つく言葉もあり、どういう言葉があるのか、様々な言葉や言葉の楽しさを知るため、テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- ・年3回(夏、秋、冬)、俳句の講師を招いて、俳句を知る。季節の言葉を知る。俳句を作ってみる。
- ・隙間時間に、えほんシネマを観て、言葉の温かさ、ストーリーに適した音や速度があることを感じ、話の世界に入る楽しさを知る。
- ・遊びの時間にライトテーブルで彩られるものの美しさを表現し、物語を作ってみようとする。鏡の世界に入り込み、感じたこと、考えたことにふさわしい言葉を探してみる。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 俳句を作る、絵本の読み聞かせにより、物語を考えて楽しんだ。
- 俳句の講師が年に3回、季節(夏、冬、春)に言葉遊びを子どもたちとする。五、七、五の面白さを感じる。
- 効果音アニメーション付き絵本読み聞かせアプリケーション、プロジェクター
- ライトテーブル、イロイロモザイク、アクリルボックス、ミラーワールド

○俳句 対象 年少児・年中児・年長児

言葉遊び

俳句の先生 「『○○○○を取ってくれろと泣く子かな 一茶』の○に何が入るでしょうか？」

子ども 挙手して答える

「えんぴつ」「きくらげ」「雲」「パパ」「おくつ」「メダル」「ふうせん」

俳句の先生 「ヒントは遠くにあって取ってほしいと思うもの」

子ども 「とり」

俳句の先生 「名月でした。お月見って知っている？あのお月さまのことですよ」

子ども 「ああ!でもいろいろなことばいれるとたのしいね」

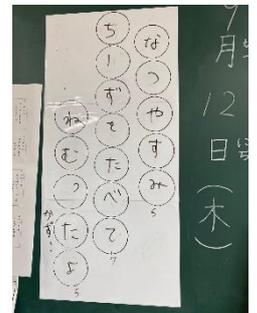
俳句作り 対象 年長児

(発見)

俳句の先生 「みんなが使っている言葉も5文字7文字って多いです。日本の歌とかも。ありがとうございます、こんにちはとか」

子ども 「○○ちゃんって名前を呼ぶのも5文字だね」

しゃぼんだまの歌を歌い、「ほんとうだ!」



この発見から、その後、5文字集め、7文字集めが始まり、見つけると先生に報告し、教室にいろいろな言葉が貼られていった。それを五、七、五にして組み合わせて面白い言葉作りを楽しむ姿もあった。

(興味・探求心の広がり)

担任 「五、七、五の言葉を考えて俳句を作ったので聞いてください」

子ども 「なつやすみ おべんとたべて ふとちよだ」

子ども 「うんどうかい ちからをあわせ がんばった」

子ども 「いもほりは あめがぼたぼた でもたのし」

俳句の先生 「すてきな言葉がでてきたね。」



カルタ作り 対象 年長児

2月の言葉遊び教室までに幼稚園を題材にした俳句を作り、カルタを作成しました。

「てんとうむし いっぱいいたよ えんていに」

「ねえせんせい あそびのじかん なんじまで」



(振り返り)

・YouTube で聞いた言葉の粗雑さを言う姿があったが、言葉をいろいろ知っていく中で、自分の感情をおかすだけでなく、違う表現があることを知り、その言葉で伝えられるようになったり、言葉遊びを楽しむようになったりした。有名な俳句の中に自分の考えた言葉を発言して先生に認められること、友達に、「それもいいね」と言ってもらえることで言葉遊びの楽しさを知ることができたように思う。

○効果音アニメーション付絵本読み聞かせアプリケーション 対象：年少児・年中児・年長児

(感動)

心が落ち着かないとき、ざわざわする時に観て、お話の世界に入っていき様子が感じられた。優しい声と、絵本が動き出す映像に心がずっと落ち着いていく様子があった。

みんなで同じ話を共有することで、感想を伝えあったり、話にちなんだ行事を思い出したりする子もいた。

毎日の絵本の読み聞かせでは、先生が読み手になるが、先生も子どもと同じ聞き手になれ、子どもと共感できる。

(振り返り)

効果音アニメーション付絵本読み聞かせアプリケーションを導入したことによって、テレビのアニメとは違う気持ちの安定を得られることができた。また、お話の世界に入りやすく、楽しめた。保育者も安心して観させられるものであったこともよかった。



ナレーションの真似をして「ぼこぼこぼこぼこ」

聴きながら、話の先を想像してみたり、「食いしん坊のクジラはお腹痛くなるんじゃない？」と心配してみたり。

○ライトテーブル 対象：年中児、年長児

(発見)

子ども「光っているときれいに見えて、暗くなると汚く見える。なんでだろうね」

きいろあかあおへびにんげん

くもみたいうみみたい

おれんじふうせんみたい

恐竜の赤ちゃんとかげだよどじょうきた

頭の上、めちゃくちゃくるりんって感じ。波だ〜



(探求心)

イロイロモザイクを並べて、「赤ちゃん用滑り台でここが信号。

これはサーカスで、ボールの上に立つやつで、これはきれいなところ。

これはただの観覧車」と想像しながら作ったものを見せてもらった。

その後、形に色を塗り、それを貼り合わせて作品を作り、物語ができた。



ドリルを持ちながらマジシャンをして、太陽にあたって家が乾いて、空からマジックでシャボン玉が出て、ドーナツになって割れて世界チャンピオン1位になった。



小人さんがエンダーパールで宇宙に行きました。太陽、月、隕石、土星、星も見ました。

(振り返り)

・ライトテーブル1つで子どもの想像力が広がり、いろいろな会話を楽しむ姿が見られた。ミラーワールドの無限に広がる世界も、子どもの心を躍らせ、「きれい」「すてき」という表現だけでなく、様々な言葉を溢れさせていった。また、ライトテーブルは、えほんシネマの影響もあり、物語を作っていく場でもあったように感じる。

(まとめと今後の課題)

・今回は言葉について様々な環境を用意し、子どもが聞く言葉を増やしたり、表現を引き出そうとしたりすることに専念した。「やだ」「つままない」「おかつく」という言葉を言っていた子も「おずかしそうできない」「やりたくない」「いらいらする」など、様々な表現で自分の気持ちを表せるようになったように思う。また、言葉の伝え方について齋藤孝さんの監修した絵本「ふわふわとちくちく」で言葉の表現の伝え方も子どもと共に考えることができ、「その言い方はちくちくだったよ」など伝え合えるようになった。今後も言葉については、子どもたちが表現したいことをうまく伝えられるように、また、言葉でイメージを共有できるようにしていき、言葉を大切にできるようにしていきたい。

1. 活動のテーマ からだ

<テーマの設定理由>

4年前、賢い体づくりという題目で講演していただき、体を正しく使っていくことによって、運動能力が上がっていくことを知った。自分の体を守るためにも空間認知能力を身に着け、運動能力を高められるように研究を続けている。

2. 活動スケジュール

8月を除く、毎週木曜日に体操の講師に来園していただく。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

○ 身体の成長とともに、やってみたいことが増える子どもたちにこたえ、様々な体の動かし方を探究した。

○ 運動ノートを毎年見直し、子どもが目標をもって運動することを楽しむ。

自分たちでノートを見ながら、達成できていないことを見つけて挑んでいく姿があった。また、達成がなかなかできない項目を知り、子どもの苦手な動きがわかり、そのために必要な動きを考えて取り組ませるようにした。

例)・鉄棒の前回りが達成できない→くるっと回る動きが苦手で怖がる。

解決に向けて…教員が手を持ち、くるりんぱをする。→鉄棒の前回りをやろうとするようになる。

・開脚の形が定まらない→足で踏ん張る力がついていない。

解決に向けて…裸足にして開脚をする。→滑らず形が身に付く。

○ 様々な運動用具と関わり、挑戦する。様々な運動用具を使って遊びを広げ、友達と競ったり、話したりしながら動くことを楽しみ、表現していく。

例)・鉄棒の逆上がり 友達が逆上がりができるようになった。自分も逆上がりができるようになりたいと遊びの時間に逆上がりを練習する。できるお友達に見てもらったり、やって見せてもらったりし、体操講師のポイントを思い出したりして取り組み、友達ができるようになると皆で喜んだ。



年中児 3学期

・リレー はじめは個々好きなように走っていた。負けたくない子とどちらでもよい子といた。リレーの練習をして負けると泣く子もいた。どうしたら勝てるかを考えて、順番も子どもたちで決めていった。徐々にチームの仲間意識が高まり、皆勝ちに行く気で走るようになった。負けると抜かされた子のせいにする言葉もあったが、そういう言葉を言う子も抜かされる経験をして、負けて悔しい思いは持つが勝ったチームに拍手できるようになった。

○ 身体の使い方を知り、自分の意志で身体がうまく動かせるようにするために様々な運動を楽しむ。主に柔軟体

操が身につくように指導していく。

体操講師の柔軟を見様見真似で、適当にやっている姿があった。柔軟体操のポイントを教えながら伸ばすところ、縮める場所を伝えてやると、「難しい」という声が出る。3年かけてポイントを丁寧に伝えていくと、年長児になって、伸ばすところを伸ばしながら、自分ができるまで曲げることができるようになっていった。身体の柔らかさから、側転の練習も危ない感じはなく行えていた。

※1年を通して体操については園ホームページ「ブログ★園の様子」の木曜日に活動内容を掲載しています。



4. 振り返りと今後の課題

(振り返り)

幼稚園の中だけでは、なかなか身に付かないので、親子体操を2回行い、保護者にもどう支えてあげるとよいか、どんな動きをしたらよいかを伝えてもらった。子どもも保護者と体操をすることを楽しめて、ご家庭でも「でんぐりがえし」や「鉄棒」「縄跳び」をする機会を作ってもらえた。できるようになった子が増えていくと、できなかった子もできるようになりたいと思って取り組む姿が見られた。

(今後の課題)

親子体操を学期ごとに1回やっていく。また、今取り組んでいることを保護者に伝え、体操教員からのコメントも入れて配信していく。

1. 活動のテーマ せかいとの出会い

<テーマの設定理由>

外国人の英語あそびの先生に関心を持ち、先生と話したい、先生はどんなところで生まれたんだろう?という疑問を持つようになり、外国に興味を広がるようにテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- ・月1回、外国語を話す先生と歌を歌ったり、お話を聞いたりして交流した。
- ・講師の先生がどこで生まれたのか、どういう国なのかを世界地図を用いたり、写真を見せてもらったりして学ぶ。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

英語遊びに出身国がモルドバの講師を招いた。挨拶ソングを歌い、簡単なリズム遊びを毎回行う。季節や年齢にあった絵本を読んでもらったり、歌を教えてもらったりする。



○歌 Hello! See You Later

挨拶の歌は音楽が流れると、「始まる」「終わりだ」という声が聞かれ、先生の動きに合わせて動いていた子どもたちが「I am good」などの単語と一緒に歌えるようになってきた。

年中児は繰り返しのある「I can sing a rainbow」という歌を少しだけ歌えるようになり、年長児は「Humpty Dumpty」の歌詞の内容が面白いということで歌おうとする姿があった。

○数字、天気、家族、果物、食べ物、色

年少児は数字を覚えて、英語遊び以外でも数えるときに「one, two, three…」と言えるようになった。年中児は、色を鬼ごっこや遊びの中で「green, yellow, red, blue, paleblue」など使うようになった。年長児は、天気「sunny, cloudy, rain」のほかに「stormy, snowy」なども教わり、毎朝、天気を英語で確認し合っていた。



○イースター ハロウィン クリスマス

イースターでは、ひよこや赤ちゃんが出てくる絵本を読み聞かせて、動物の鳴き声の違いを楽しんだ。ハロウィンでは、「Trick or Treat」を覚え、地域のハロウィンのお祭りにも参加した子もいた。

クリスマスでは全園児「We wish you a Merry Christmas」を歌い、クリスマス会で合唱した。先生の行事ごとの服装にも子どもたちは楽しんで参加したいという思いを持ってた



○モルドバの話



モルドバの国についてお話を聞いた。ルーマニア語だということ、「さようなら」を「パ」ということを覚えて、先生が来て帰ると「パ」と挨拶する子が増えた。マルツィショールというモルドバの春が来るお祭りで赤と白の色で飾りを作った。「日本と違うところはどこですか?」「何時間飛行機に乗るのですか?」など子どもからも質問が出て、緑が多く、ブドウがたくさん実り、ワインが有名であることも知った。



(振り返り)

令和5年度から英語遊びに外国人の先生をお願いした。その理由として、外国人が傍にくるだけで怖がる姿が見られると保護者の意見があったからだ。初年度は、近づけない子どもや同じ空間にいられない子どももいた。

中には興味があって近づいて遊ぼうと声をかける姿もあった。今年度に入り、先生を拒否する子どもはいなくなり、むしろ関わりたいと思う子どもが増えた。

英語を聞くようになったが今はまだ何を言っているのかわからない様子もある。英語で話した後に日本語で言ってくれるので、応える子どもは増えた。昨年度の繰り返しということもあり、教材が馴染みあるとなんとなく覚えていて、応えようとするようになった。

出身国の話もしてもらい、遠い外国の様子に興味を持つ姿があり、また日本との違いにも関心が持てた。そして世界には日本語と英語だけでなくいろいろな言葉があることを知るきっかけになった。

(今後の課題)

学期ごとに同じ歌を繰り返し歌うことで、歌をより歌えるようになるのではないかと考える。先生が使用する教材は、園にも用意しておき、英語遊びでない時も手に取れるようにしておくことで、より教わったことを獲得できるのではないかと思われる。コーナーを作り、子どもが自由に音楽を流せたり、先生の読み聞かせを録画したものを流せたりしたら、英語にもっと興味を持ちてるのではないかと思う。